

トップコミットメント



社会と同じ目線で企業価値を拡大

これからの企業経営には、社会と同じ目線に立ち、社会と共通の価値を追求していく姿勢が求められています。特に我々総合商社は、多様な商品・サービス、培ってきたノウハウ、世界規模での市場を有機的に結び付け、社会の課題を解決することが期待されています。本業を通じた社会的課題の解決は我々にとっても長期的にグローバル競争を勝ち抜いていく強みになります。

伊藤忠商事の創業者である初代伊藤忠兵衛は、「商売は菩薩の業、商売道の尊さは売り買いいずれをも益し、世の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの」と商売を通じた社会への貢献を提唱していました。これは伊藤忠兵衛をはじめとする近江商人が提唱した「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の経営哲学に通じるもので、創業から150年を超える今も、伊藤忠グループの企業理念「豊かさを担う責任」へと発展させ、世界のビジネスの現場で実践しています。なお、当社は、国際社会に企業理念の確実な実践を表明する意味を込めて、「国連グローバル・コンパクト」に2009年から参加しています。

本業を通じた社会的課題の解決に向けた取組みについては、2012年8月は当社が展開する、インドにおける有機栽培移行期の綿農家を支援する「プレオーガニックコットンプログラム」が、商業的な成功と持続可能な開発を両立する取組みとして国連開発計画(UNDP)などが主導する「ビジネス行動要請」に承認されました。このような取組みをさらに広げていくために、現場主義を徹底し、営業社員をはじめ社員一人一人が、目の前の仕事から一歩踏み込み、客先、業界、社会とより大きな目線で課題をとらえ、解決型のアクションに知恵を絞っていく環境づくりを実践していきたいと考えています。

「その道のプロ」の育成と多様な人材の活躍支援

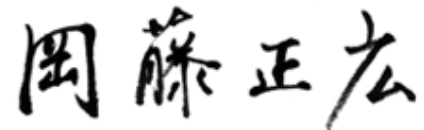
総合商社の最大の経営資源は人材であり、成長を支える重要な経営基盤です。我々の事業活動を支える人材はゼネラリストではなく、特定の分野で高い専門性を身につけた「その道のプロ」を目指すべきだと考えています。例えば、ある営業社員が、幅広い分野で業務経験と知識を持っていたとしても、表面的な知識では特定の分野で何十年も経験があるお客様と同じ土俵に立ってビジネスの話をするのは不可能です。「幹」がなければ「枝」はありません。一つの部署で経験を積み重ね、商売の「肝」や「勘所」をしっかりと学んだ人材が、ビジネスの難易度が年々高まりを見せる現在の総合商社には必要です。一つの業界でビジネスの流れに精通すれば、他のフィールドでも必ずそれを活かすことができると考えています。そのような深みのある人材を育てていきたいと考えています。

また、当社はこれまでも多様な人材の活躍支援に注力してきましたが、新中期経営計画においても「活躍する女性ロールモデルの創出」を人事政策の一つに掲げました。2013年4月には当社で総合商社初となる女性執行役員が誕生しましたが、それぞれの人材に応じたきめ細かなキャリア支援を行うことで、これに続くロールモデルを創出し、リーダーを担う人材を育成していきます。

企業の真の価値観が問われる時代

ITの発達とグローバル化は、世界のパワーバランスや常識を一瞬にして覆すほどであり、誰もがかつて経験したことのないスピード感を世界中にもたらしています。このような変化の激しい時代にあって、我々総合商社はこれまで培ってきた経営資源を活かして、広くチャンスとリスクを俯瞰できる立場にあり、国際社会での役割は、ますます重要になっていくと捉えています。

一方で、このような変化のめまぐるしい時代においても、企業の真の価値観は、ぶれることがあってはならないと考えています。伊藤忠商事が150年以上にわたって事業活動を継続・発展できたのは、「三方よし」の精神に代表されるように、常に「社会との共通価値」を事業活動の根幹に据えてきたからです。この価値観を今一度、全世界の社員のDNAへ落としこみ、現場の社員一人一人が「社会の課題を解決する主役だ」という企業文化を築き上げていきたいと思っています。



代表取締役社長 岡藤 正広

2013年7月